

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館

☎ 21-4141 FAX 21-4142

URL www.town.kutchan.hokkaido.jp/town/somoa/index.jsp

倶知安風土館

☎ 22-6631 FAX 22-6632

URL www.town.kutchan.hokkaido.jp/town/hoodokan/hoodokan.jsp

開館時間は9時～17時(入館は16時半)
1月の休館日 1～4、11、18、25日

『卓上カレンダー2011』

好評発売中!! 800円

小川原脩記念美術館友の会

新しい年を迎えました。今年は小川原脩生誕100年を迎えます。変わらぬものの価値をお届けします。

土曜、日曜は「じゃがりん号」に乗って美術館・風土館へ行こう。

展覧会のお知らせ

常設展 小川原脩「自伝風な展覧会 - アジアの大地 - 」開催中

桂林、チベット、インドへの旅は小川原の画風に大きな変化をもたらしました。絵の具の質感が見る者にとってとてもやわらかく感じられます。極めて単純な構図の中にも人間、動物、物体の存在感すら覚えます。

ホッとする展覧会に仕上がっております。

企画展「不思議 ふしぎ・この絵なんだろう...?」開催中

何を描いたのか判らない。きっと、作者は何かをイメージして作品を仕上げたのだと思いますが、どうも理解しがたい。そのような作品ばかりを展示しております。どうか想像力を発揮して作家が意図することを探ってください。

◆ミュージアムコンサート◆

「クラリネット・フルート・ピアノの夕べ」梅本貴子、杉本佳代子、森あつこ

2011年1月26日(水)小川原脩記念美術館

チケット:一般2000円 小中学生1000円(事前予約要)友の会会員1800円

風土館から「風土館講座のおさそい」

第3回風土館講座を開催します。この地域の自然ガイドの第一人者が、この地域の植物について一般的なことをわかりやすく解説していただきます。

関心のある方はぜひご参加ください。なお聴講料は無料です。来館時に受付で講座参加をお申し出下さい。

日時 平成23年1月29日(土)

15時～16時半(質疑応答含む)

演題 羊蹄・ニセコの自然・植物(その1)

講師 古市竜太さん(山岳ガイド コヨーテ主宰)

木田金次郎美術館 ☎ 0135-63-2221

秋から冬を迎える展覧会

「出会いから100年 木田金次郎と有島武郎」開催中
冬休みワークショップ

「コラージュで『ふしぎな世界』をつくろう」

1月6日(木)13時30分から

「きだび図書館 2010 木田金次郎の本棚」

1月16日まで開館中

西村計雄記念美術館 ☎ 0135-72-2525

没後10年 西村計雄 - 少年の旅路 - 開催中

1月4日(火)お正月ダヨ! おやかでてつくりたこあげ大会」

荒井記念美術館 ☎ 0135-63-1111

現在冬の休館中

海と山と田園と - ミュージアムロード情報 -

倶知安博物誌



ウサギの成功

年が改まった。今年の博物誌は、まず今年の干支であるウサギを話題にすることから始めよう。

日本には、いわゆるウサギとは少し類縁が遠いナキウサギが北海道に、そして奄美大島に原始的なアマミノクロウサギが分布する。純然たるノウサギとしては本州から九州に二ホンノウサギが、北海道にはユウラシア大陸に広く見られるユキウサギが生息する。

日本のノウサギの仲間には、毛が生えて眼が開き、直ぐにでも行動できるような子どもを産むが(英語ではhareと呼ぶ)、農家や学校でしばしば飼われているウサギは、地面に穴を掘ってつくった巣の中に赤裸で眼も開いていない子を産むことから、英語でRabbit(日本語ではカイウサギ)という。

カイウサギは南欧原産のアナウサギが家畜化されて世界中に広がったもので、日本には江戸時代に持ち込まれ、今では一部の島で野生化している。

ウサギの仲間はとても繁殖している。もともとは稲作が盛んな南米やオーストラリアにも人間によって持ち込まれ、駆除が困難なほど増えているし、今では南極といくつかの島を除くほぼ世界中に生息するに至っている。

ウサギの持つ大きな耳は敵を避けるための鋭い聴覚を、大きく発達した後ろ足は敵から逃げる高い能力を持つことを示す。ウサギは高い繁殖力を唯一の武器に、防御に徹する生き方を選んだ。どうやらこの選択は正しかったようだ。今や地球上でこんなに繁殖しているのだから。